キリスト教文化研究所主催研究フォーラム

宗教の時代としての平成

大震災とオウム事件・グリーフケアと宗教の役割

平成元年はオウム真理教の
宗教法人認証ではじまり、
坂本弁護士一家拉致殺害事件へ。
その後、平成6年には
松本サリン事件、
翌年は阪神大震災、
地下鉄サリン事件、
さらに年を経て、
東日本大震災と惨事は続き、
オウム真理教の代表麻原彰晃と
その高弟13人の死刑執行で
平成は幕を閉じる。
この間、宗教団体や宗教者は
何を考え、何を問われ、
どのように変わっていったのか、
二人の宗教学者を迎えて、
平成という時代を
「宗教」をキーワードに総括します。

2019年11月23日(土) 13:30〜16:30

会場 土樋キャンパス
ホーイ記念館 H201教室

受講無料
申込不要

どなたでも受講できます
直接会場にお越しください

講師

上智大学大学院実践宗教学研究科教授、
東京大学名誉教授

島薗（しまぞの） 進（すすむ） 氏

1948年、東京都生まれ。宗教学者。東京大学文学部宗教学・宗教史学科卒業。東京大学名誉教授。現在、上智大学大学院実践宗教学研究科教授、同グリーフケア研究所所長。主な研究領域は近代日本宗教史、死生学。2012年に『日本人の死生観を読む　明治武士道から「おくりびと」へ』（朝日選書）で第6回湯浅泰雄賞を受賞。著書『現代宗教の可能性 オウム真理教と暴力』（岩波書店）、『ともに悲嘆を生きるグリーフケアの歴史と文化』（朝日新聞出版）、『明治大帝の誕生帝都の国家神道化』（春秋社）他多数。

本学文学部教授

川島（かわしま） 堅二（けんじ） 氏

1958年、東京都生まれ。東京神学大学大学院・東京大学大学院・ドイツキール大学で神学・宗教学を学ぶ。博士（文学）、現在、東北学院大学文学部教授。専門は近代キリスト教思想。著書・論文『F.シュライアマハーにおける弁証法的思考の形成』（本の風景社）、『大学のカルト対策』（共著・北海道大学出版会）、「シュライアマハーとラーマーヌジャ」（東北学院大学キリスト教文化研究所紀要）等。

主催／東北学院大学 キリスト教文化研究所

問合せ先／東北学院大学 研究機関事務課
TEL 022-264-6401